

OpenVMS CIFS Version 1.2

移行ガイド

© Copyright 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

著作権情報

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パカードは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。日本ヒューレット・パカードは、弊社または弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

Intel および Itanium は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその関連会社の登録商標です。

Microsoft, Windows, および Windows NT は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

原典

『OpenVMS CIFS Version 1.2 Migration Guide』 Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

目次

まえがき.....	5
本書の対象読者.....	5
本書の構成.....	5
本書の表記法.....	5
 1 概要.....	7
1.1 前提条件.....	7
1.2 移行キットのインストール.....	8
 2 移行手順.....	11
2.1 Advanced Server での移行作業.....	11
2.1.1 Advanced Server データに関するレポートの生成.....	11
2.1.1.1 メンバーサーバーとして構成されている場合.....	12
2.1.1.2 PDC として構成されている場合.....	13
2.1.2 不用ファイルの削除.....	15
2.1.3 OpenVMS CIFS ノードへのレポートの転送.....	15
2.2 OpenVMS CIFS Server での移行作業.....	16
2.2.1 ホストマッピングの移行.....	16
2.2.2 SAM データベースの移行.....	16
2.2.2.1 ユーザーアカウントおよびグループアカウントの移行 (メンバーサーバーの場合).....	16
2.2.2.2 SAM データベースの移行 (PDC の場合).....	18
2.2.2.2.1 パスワードの移行.....	20
2.2.2.2.2 移行後に OpenVMS CIFS を PDC として構成する.....	21
2.2.3 ファイルの移行.....	21
2.2.4 ファイル共有の移行.....	22
2.2.5 ファイルセキュリティの移行.....	22
2.3 制限事項.....	25
 索引.....	27

まえがき

本書では、Advanced Server for OpenVMS から OpenVMS Common Internet File System (CIFS) への移行方法について説明します。

本書の対象読者

本書は、OpenVMS システム管理者およびネットワーク管理者を対象にしています。OpenVMS CIFS Server についての詳細は、下記の URL の OpenVMS CIFS Server のドキュメントを参照してください。

<https://www.hpe.com/jp/openvms-cifs>

本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

第1章 概要

移行作業について概要を説明します。

第2章 移行手順

同一ノード内あるいは異なるノード間でのファイル共有の移行手順について説明します。この章では、ファイルセキュリティの移行や、SAM データベースとホストマッピングの移行についても説明します。

本書の表記法

本書では、以下の表記法を使用します。

表記法	意味
...	例の中でこの水平方向の反復記号が使用されている場合は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none">文中のその他のオプション引数が省略されている。先行する 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。パラメーターや値などの情報をさらに入力できる。
⦿	垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中で項目が省略されていることを示します。この反復記号で項目が省略されている場合は、その部分が説明の内容にとって重要ではないことを意味しています。
()	コマンド形式の記述でこの記号が使用されている場合は、選択オプションを複数個指定するときにそれらの選択オプションを括弧で囲む必要があることを示します。インストールやアップグレードの表示例では、次に示すように、プロンプトに対する回答の候補を示します。 Is this correct? (Y/N) [Y]
[]	コマンド形式の記述で項目が大括弧で囲まれている場合は、その項目が選択オプションであることを示します。項目を 1 つ以上選択することも、すべて省略することもできます。コマンド行には、項目を囲んでいるこの大括弧を入力しないでください。ただし、OpenVMS のディレクトリ指定構文や、代入文の部分文字列指定構文に含まれる大括弧は、省略できません。インストールやアップグレードの表示例で項目が大括弧によって囲まれている場合は、プロンプトに対するデフォルトの回答を示します。値を入力しないで Enter を押すと、デフォルトの回答が入力されたものとして処理されます。次に、その例を示します。 Is this correct? (Y/N) [Y]
{ }	コマンド形式の記述で項目が中括弧で囲まれている場合は、その項目が必須の選択オプションであることを示します。少なくとも 1 つの項目を指定する必要があります。コマンド行には、この中括弧を入力しないでください。
Example	この (等幅) フォントは、コード例、コマンド例、または会話操作中の画面出力を示します。本文中では、OpenVMS コマンドやパス名、PC のコマンドやフォルダ名、または C プログラミング言語の特定要素を示すこともあります。

表記法	意味
<i>italic type</i>	イタリック体のテキストは、重要な情報、ドキュメントの正式なタイトル、または変数を示します。変数は、システムからの出力(たとえば「Internal error number」)、コマンド行(たとえば「/PRODUCER=name」)、または本文中のコマンド・パラメーター(たとえば「dd はデバイスの種類を表すコードです」というように、一定でない情報を表します。
UPPERCASE TYPE	大文字の英文テキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、またはシステム特権の短縮形を示します。
—	コマンド形式の記述、コマンド行、またはコード行の末尾にあるハイフンは、コマンドや文が次の行まで続いていることを示します。

第1章 概要

この章では、移行処理の概要を説明します。

以下の内容について説明しています。

- 「前提条件」
- 「移行キットのインストール」

Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へ、同一ノード内あるいは異なるノード間でのデータの移行を支援するための手順が用意されています。Advanced Server がメンバーサーバーあるいはプライマリ・ドメインコントローラー (PDC) として構成されていれば、データを移行できます。

Advanced Server メンバーサーバーから OpenVMS CIFS メンバーサーバーへは、次のデータを移行できます。

- ファイル共有
- ファイルおよびフォルダー、およびそれらのセキュリティ設定
- ホストマッピング
- SAM (Security Accounts Manager) データベースアカウント

Advanced Server PDC から OpenVMS CIFS PDC へは以下のデータを移行できます。

- ファイル共有
- ファイルおよびフォルダー、およびそれらのセキュリティ
- ホストマッピング

PDCの移行に関しては、ユーザーやグループなどのSAMデータベース関係のレポートは生成されません。SAM データベースを移行するには、2.2.2 項「SAM データベースの移行」で説明する手順に従ってください。

以下のデータは、Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へ移行できません。

- アラート名
- 共有およびファイル監査ポリシー
- レジストリパラメーター
- WINS アドレス
- Advanced Server で構成されていたクライアントの数

メンバーサーバーからの移行の場合、以下のデータは Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へ移行できません。

- ワークステーションの制限事項の詳細
- ログオンフラグ（ログインスクリプトの実行、アカウント削除の失敗、アカウントのロックアウト、パスワード変更の失敗、あるいはパスワードの期限切れ、など）
- アカウントパスワード

1.1 前提条件

Advanced Server から OpenVMS CIFS Server への移行前に、以下の点を確認する必要があります。

- OpenVMS CIFS Server Version 1.1 ECO1 (あるいはそれ以降のパッチ) がインストールされていること。移行キットのインストールについての詳細は、1.2 項「移行キットのインストール」を参照してください。
- Advanced Server システムに Advanced Server Version 7.3B for OpenVMS がインストールされていること。



注記: Advanced Server Version 7.3B for OpenVMS の最新パッチを適用していることが必要です。最新パッチについては、HP カスタマ・サービス・センターにお問い合わせください。

- PWRK\$ROOT ディレクトリに Advanced Server のすべての共有と関連データとともに Advanced Server データのバックアップがあること。
 - Advanced Server と OpenVMS CIFS Server がメンバーサーバーとして構成されており、両方が同じドメイン内にある場合に限り、メンバーサーバーの移行を行うことができます。
 - Advanced Server 環境と OpenVMS CIFS Server 環境で構成が異なる場合、移行はサポートされません。
 - Advanced Server がインストールされているノードに ASV_MIGRATION.BCK ファイルをコピーする必要があります。
 - Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へのデータの移行は、第2章で説明する順番で行う必要があります。
 - メンバーサーバーを移行する場合、SAMBA\$ROOT:[LIB]SMB.CONF の [global] セクションに次のパラメーターが含まれている必要があります。
 - idmap UID および idmap GID パラメーターと有効なエントリ。idmap UID および idmap GID パラメーターについての詳細は、『OpenVMS CIFS 管理者ガイド』を参照してください。
 - username map パラメーター。ユーザー名のマッピングについては『OpenVMS CIFS 管理者ガイド』を参照してください。
 - PDC の移行のための SAMBA\$ROOT:[LIB]SMB.CONF の設定については、2.2.2 項「SAM データベースの移行」を参照してください。
 - PDC とメンバーサーバーのそれぞれの移行手順は、SAM データベースの移行に関して違いがある点を除き、同じです。
- PDC とメンバーサーバーの手順の違いについては、第2章に明示してあります。また、Advanced Server のバックアップ・ドメインコントローラー (BDC) から OpenVMS CIFS BDC への移行手順は PDC の移行手順と同じです。なお、OpenVMS CIFS Server は Advanced Server の BDC と同じドメインの BDC として構成されていなければなりません。

1.2 移行キットのインストール

ここでは移行キットのインストール手順について説明します。

移行キットのインストール手順は以下のとおりです。

1. OpenVMS CIFS Server Version 1.1 ECO1 をインストールします。OpenVMS CIFS Server Version 1.1 ECO1 は次の URL からダウンロードできます。

<https://www.hpe.com/jp/openvms-cifs>

なお、将来最新のパッチがリリースされた場合は以下の URL で公開されます。

<https://www.hpe.com/jp/openvms-cifs>

2. 下記の URL から OpenVMS CIFS Server Version 1.1 の移行キットの zip ファイルをダウンロードします。

<https://www.hpe.com/jp/openvms-cifs>

3. ダウンロードしたファイルを unzip し、以下のファイルをローカルディスクに展開します。
 - ASV_MIGRATION.BCK
 - CIFS_MIGRATION.PDF
 - CIFS_MIGRATION.PS

- CIFS_MIGRATION.TXT
4. Advanced Server がインストールされているノードに ASV_MIGRATION.BCK ファイルをコピーします。ASV_MIGRATION.BCK ファイルについては、[2.1.1 項「Advanced Server データに関するレポートの生成」](#)を参照してください。

第2章 移行手順

この章では、同じノード内および異なる2つのノード間でファイル共有を移行する方法について説明します。ACL(アクセス制御リスト) ファイルとともに SAM データベースおよびホストマッピングを移行する方法についても説明します。

以下の項目について説明します。

- 「Advanced Server での移行作業」
- 「OpenVMS CIFS Server での移行作業」



注記: 同じシステム上で Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へデータを移行する手順と、異なるシステム上の Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へデータを移行する手順は、以下の項で説明するようにわずかな違いはありますが、ほぼ同じです。

2.1 Advanced Server での移行作業

ここでは、Advanced Server ノードで実行する移行手順について以下の項目を説明します。

- 2.1.1 項 「Advanced Server データに関するレポートの生成」
- 2.1.2 項 「不用ファイルの削除」
- 2.1.3 項 「OpenVMS CIFS ノードへのレポートの転送」

2.1.1 Advanced Server データに関するレポートの生成

ここでは、Advanced Server データに関するレポートの生成方法について説明します。

Advanced Server ノードでレポートを生成するには、次の手順を実行します。

1. Advanced Server が実行中であることを確認します。
2. ASV_MIGRATION.BCK ファイルの内容を適当な作業ディレクトリにリストアします。
たとえば、ASV_MIGRATION.BCK ファイルを DISK\$DATA1:[ASV_MIGRATION] ディレクトリにリストアするには、次のコマンドを実行します。

```
$ BACKUP ASV_MIGRATION.BCK/SAVE DISK$DATA1:[ASV_MIGRATION]
```


これにより次のファイルがリストアされます。

```
PWRK$MIGRATION.EXE  
GET_DRIVER_INFO.EXE  
GET_QUEUE_INFO.EXE  
PWRK$CIFS_MIGRATION.COM  
EXPORTPWD.EXE
```
3. メンバーサーバーからの移行あるいはメンバーサーバーへの移行の場合は、その Advanced Server のメンバーサーバーの管理者特権が必要です。
Advanced Server のローカル管理者グループのメンバーアカウントを使用してログインしてください。これは以下のいずれかになります。
 - ドメインアカウント
 - 信頼されるドメインのアカウント
 - ローカルのメンバーサーバーアカウント

PDC への移行あるいは PDC からの移行の場合は、Advanced Server の管理者特権が必要です。

Advanced Server の Administrators グループのメンバーアカウントを使用してログインしてください。



注記: メンバーサーバーとしてログインしている場合は、ドメインコントローラーでセキュリティポリシー"Network access: Allow anonymous SID name translation"が有効になっていることを確認してください。ドメインアカウントを使用してメンバーサーバーのパーミッションを管理するためには、このポリシーが有効になっていることが必要です。

4. 次のコマンドを実行します。

```
$ @PWRK$CIFS_MIGRATION.COM
```



注記: 移行処理中、Advanced Server が PDC あるいはメンバーサーバーのどちらとして構成されているかをシステムが確認します。その構成に従って、システムは移行のための適切なメニューを表示します。詳細は2.1.1.1 項「メンバーサーバーとして構成されている場合」および2.1.1.2 項「PDC として構成されている場合」を参照してください。

2.1.1.1 メンバーサーバーとして構成されている場合

Advanced Server がメンバーサーバーとして構成されている場合、PWRK\$CIFS_MIGRATION.COM を実行すると次のようなメッセージが表示されます。

```
Advanced Server for OpenVMS to HPE OpenVMS CIFS migration utility
```

```
Welcome to Advanced Server to CIFS migration utility
```

```
The migration procedures require administrator privileges
on the Advanced Server member server. Therefore, you must
logon using an account that is a member of the local
Administrators group on the Advanced Server. This can be any of the below:
```

- Domain account
- An Account in a Trusted domain
- Local Member Server account

```
Logon Menu:
```

- 1 - Domain Logon
- 2 - Trusted Domain Logon
- 3 - Local Member Server logon

```
[E] - Exit
```

```
Enter your option:
```

```
Choose the options to login correspondingly.
```

```
Once you login successfully you will get the below menu where you can generate the reports.
```

```
This migration utility generates reports required as input for migrating Advanced Server
data to CIFS.
```

Advanced Server to CIFS Migration utility comprises the options:

- 1 - Display reports to be generated
- 2 - Generate Individual reports
- 3 - Generate all reports
- 4 - Display reports
- 5 - Edit File and Print share report
- 6 - Backup reports
- [E] - Exit

Enter your option:

ここで表示されるメニューの意味は以下のとおりです。

オプション 1

Advanced Server ノードで生成できるレポートを表示するにはこのオプションを選択します。

オプション 2

このオプションを選択すると、個々のレポートを生成できます。たとえば、ファイルセキュリティの移行に限定したレポートを作成できます。

オプション 3

このオプションを選択すると、以下のすべてのレポートを一度に生成できます。

- ユーザーおよびグループの移行レポート（メンバーサーバーの場合）
- ホストマッピングのレポート
- ファイル共有に関するレポート
- ファイルセキュリティのレポート

オプション 4

このオプションを選択すると、すでに生成したレポートを表示できます。

オプション 5

このオプションを選択すると、ファイル共有レポートを編集できます。共有パス中のデバイス名または論理名は、OpenVMS CIFS Server で有効なものへ変更が必要です。場合によっては、移行されないようにレポートから共有を削除する必要があります。

オプション 6

このオプションを選択すると、生成された Advanced Server レポートのバックアップを取ることができます。バックアップは、Advanced Server についてのレポートをすべて生成した後に取ってください。

2.1.1.2 PDC として構成されている場合

Advanced Server が PDC として構成されている場合、次のようなメッセージが表示されます。

Advanced Server for OpenVMS to HPE OpenVMS CIFS migration utility

Welcome to Advanced Server to CIFS migration utility

PWRK_DOMAIN_NAME = "ZINXEDDOM"

Logon Menu:

```
1 - Domain Logon
[E] - Exit
```

Enter your option:

Choose the option to login.

Once you login successfully you will get the below menu where you can generate the reports. This migration utility generates reports required as input for migrating Advanced Server data to CIFS.

Main Menu

Advanced Server to CIFS Migration utility comprises the options:

```
1 - Display reports to be generated
2 - Generate Individual reports
3 - Generate all reports
4 - Display reports
5 - Edit File and Print share report
6 - Backup reports
[E] - Exit
```

Enter your option:

ここで表示されるメニューの意味は以下のとおりです。

オプション 1

Advanced Server ノードで生成できるレポートを表示するにはこのオプションを選択します。

オプション 2

このオプションを選択すると、個々のレポートを生成できます。たとえば、ファイルセキュリティの移行に限定したレポートを作成できます

オプション 3

このオプションを選択すると、次のすべてのレポートを一度に生成できます。

- ホストマッピングのレポート
- ファイル共有に関するレポート

- ファイルセキュリティのレポート

オプション 4

このオプションを選択すると、すでに生成したレポートを表示できます。

オプション 5

このオプションを選択すると、ファイル共有レポートを編集できます。共有パス中のデバイス名または論理名は、OpenVMS CIFS Server で有効なものへ変更が必要です。場合によっては、移行されないようにレポートから共有を削除する必要があります。

オプション 6

このオプションを選択すると、生成された Advanced Server レポートのバックアップを取ることができます。バックアップは、Advanced Server についてのレポートをすべて生成した後に取ってください。



注記: 移行処理中に、Advanced Server の通常の動作が妨げられることはありません。Advanced Server のイメージをシステムディレクトリにコピーする必要はありません。レポート生成中も Advanced Server を使用し続けられるように、Advanced Server との別のインタフェースを持っています。

オプション 2 の操作でファイルおよびプリント共有のレポートを選択した場合、あるいはオプション 3 を選択した場合、次のようなプロンプトが表示されます。

```
Are you migrating Advanced Server data to CIFS      Server on this node
itself [N]?:
```

同じノード内でデータを移行したい場合は "YES" を、そうでない場合は "NO" と応答します。

2.1.2 不用ファイルの削除

すべてのレポートが生成された後、不用であればリストアしたファイルを作業ディレクトリから削除してもかまいません。

2.1.3 OpenVMS CIFS ノードへのレポートの転送

ここでは、Advanced Server で生成したすべてのレポートを OpenVMS CIFS ノードに転送する手順を説明します。

生成したすべてのレポートを Advanced Server から OpenVMS CIFS ノードへ転送する手順は以下のとおりです。

1. DISK\$DATA1:[ASV_MIGRATION] ディレクトリに AS2CIFS_MIGRATION_ REPORTS.BCK が存在することを確認します。存在しない場合は、次のコマンドを入力してレポートのバックアップセーブセットを作成します。

```
$ @PWRK$CIFS_MIGRATION.COM
```

2. AS2CIFS_MIGRATION_REPORTS.BCK を OpenVMS CIFS ノードにコピーします。



注記: 同一ノード上での移行の場合、コピー操作は必要ありません

3. OpenVMS CIFS ノード上で、バックアップセーブセット AS2CIFS_MIGRATION_ REPORTS.BCK 内のファイルを SAMBA\$ROOT:[BIN] ディレクトリへリストアします。

2.2 OpenVMS CIFS Server での移行作業

ここでは、CIFS ノードにおける移行手順について説明します。

- 2.2.1 項「ホストマッピングの移行」
- 2.2.2 項「SAM データベースの移行」
- 2.2.3 項「ファイルの移行」
- 2.2.4 項「ファイル共有の移行」
- 2.2.5 項「ファイルセキュリティの移行」

2.2.1 ホストマッピングの移行

ここでは、Advanced Server から OpenVMS CIFS へホストマップ・アカウントを移行する方法を説明します。SAM データベース移行の前に、ホストマップの移行を完了しておく必要があります。OpenVMS CIFS Server が稼動しているノードで作成された OpenVMS アカウントは、SYSUAF データベースに EXTAUTH フラグが設定されていません。さらに、これらのアカウントは対話型ログイン用には設定されていません。デフォルトでは NETMBX と TMPMBX の権限のみ割り当てられています。変更の必要がある場合は、システム管理者がこれらの OpenVMS アカウントを変更しなければなりません。

OpenVMS CIFS Server が稼動しているノードでホストマッピング情報を移行するには、次の手順を実行します。

1. SAMBA\$ROOT:[LIB]SMB.CONF ファイルを編集し、[global] section:セクションに次の行を追加します。

```
[global]
username map = /samba$root/lib/username.map
```



注記: 指定した場所に username.map ファイルがない場合、次のコマンドで username.map ファイルを作成することができます。

```
$ create samba$root:[lib]username.map
$ set file/attrib=(rfm:stm,mrs:0,lrl:0) samba$root:[lib]username.map
```

2. ホストマッピングを追加するために、次のコマンドを入力します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]SAMBA$ADDDHOSTMAP.COM
```



注記: この手順は、OpenVMS CIFS Server アカウントとドメインアカウントがすでにあることを前提としています。また、対応する OpenVMS アカウントが存在することも前提としています。この手順ではアカウントの妥当性の確認は行いません。

SAMBA\$ROOT:[LIB]USERNAME.MAP ファイルを更新して、OpenVMS アカウントをローカルの OpenVMS CIFS Server アカウントかドメインアカウント、あるいはその両方にマップします。

2.2.2 SAM データベースの移行

ここでは、Advanced Server から OpenVMS CIFS へ SAM データベースを移行する方法を説明します。SAM データベースの移行手順は、Advanced Server が PDC として構成されているか、あるいはメンバーサーバーとして構成されているかによって異なります。このため、PDC とメンバーサーバーの移行手順をそれぞれ別の項で説明します。

2.2.2.1 ユーザーアカウントおよびグループアカウントの移行 (メンバーサーバーの場合)

ここでは、Advanced Server メンバーサーバーから OpenVMS CIFS メンバーサーバーへ、ユーザーアカウントとグループアカウントを移行する手順を説明します。



注記: OpenVMS CIFS メンバーサーバーが異なるドメインにある場合、Advanced Server メンバーサーバーから OpenVMS CIFS メンバーサーバーへのデータの移行はサポートされていません。

あるドメインでメンバーサーバーとして構成された OpenVMS CIFS ノードに、ユーザーアカウントとグループアカウントの情報を追加するには、次の手順を実行します。

1. 特権付きアカウントで OpenVMS システムにログインします。
2. OpenVMS CIFS Server がメンバーサーバーであることを確認し、次のコマンドを入力します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]SAMBA$DEFINE_COMMANDS.COM
```

```
$ TESTPARM
```

```
...
```

```
Server role: ROLE_DOMAIN_MEMBER
```

メンバーサーバーとして構成された OpenVMS CIFS Server の場合、上記のようにサーバーの役割が表示されます。

3. OpenVMS CIFS Server が Advanced Server のメンバーと同じドメインのメンバーかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ NET RPC TESTJOIN
```

このコマンドを実行した結果、"Join to 'domainname' is OK"と出力され、'domainname' が Advanced Server のドメイン名と一致することを確認してください。

4. 次の手順で、OpenVMS CIFS Server に特権付きのローカル管理者アカウントを作成します。

- a. OpenVMS アカウント CIFSADMIN を作成し、すべての権限を与えます。

OpenVMS アカウント CIFSADMIN を追加するには、次のコマンドを入力します。

```
$ MC AUTHORIZE
```

```
UAF> ADD CIFSADMIN/UIC=[400,1] -
```

```
_UAF> /PRIV=ALL/DEFPRIV=ALL/ADD_IDENTIFIER -
```

```
_UAF> /OWNER=CIFSDOM/DEVICE=SAMBA$ROOT/DIRECTORY=[USERS] -
```

```
_UAF> /NOBATCH/NOLOCAL/NODIALUP/NOREMOTE/FLAGS=NODISUSER
```



注記: UIC(ユーザIDコード)は、ご使用の環境で適切なものを使用してください。

- b. OpenVMS CIFS Server アカウントを作成するために、次のコマンドを入力します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]SAMBA$DEFINE_COMMANDS.COM
```

```
$ pdbedit -a CIFSADMIN
```

```
new password: Anylwilld0
```

```
retype new password: Anylwilld0
```

- c. SAMBA_ROOT:[LIB]SMB.CONF ファイルを編集し、次の行を [global] セクションに追加します

```
[global]
```

```
admin users = CIFSADMIN
```

5. 同じユーザー名 (CIFSADMIN) とパスワードを使用してドメインにアカウントを作成します。「ActiveDirectory ユーザとコンピュータ」アプレットを使うか、あるいは Advanced

Server メンバーサーバーから次のコマンドを入力することにより、PDC エミュレータでアカウントを作成できます。

```
$ ADMIN LOGON ADMINISTRATOR
```

```
$ ADMIN ADD USER CIFSADMIN/PASSWORD="Any1willd0"
```

```
_ $ /MEMBER="DOMAIN ADMIN"
```

6. 同一ノード内で移行する場合は、次のコマンドを入力して Advanced Server をシャットダウンします。

```
$ @SYS$STARTUP:PWRK$SHUTDOWN.COM
```

7. 次のコマンドを入力して OpenVMS CIFS Server を起動し直します。

```
$ SMBSTOP
```

```
$ SMBSTART
```

8. 次のコマンドを入力してユーザーを移行します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]PWRK$USER_MIGRATION.COM
```



注記: このコマンドプロシージャーの実行中に何らかのエラーが発生した場合は、PWRK\$USER_MIGRATION.LOG ファイルにエラーメッセージが記録されます。このログファイルを確認し、エラーが発生しないよう対処してください。

注記: パスワードの移行には IMPORTPWD ユーティリティを使用してください。Advanced Server からのパスワードの移行には PWRK\$USER_MIGRATION は使用できません。

パスワードの移行についての詳細は、2.2.2.2.1 項「パスワードの移行」を参照してください。

9. グループを移行するには次のコマンドを実行します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]PWRK$GROUP_MIGRATION.COM
```

ユーザー名とパスワードの入力を求められたら、CIFSADMINのユーザー名およびパスワードを指定します。



注記: このコマンドプロシージャーの実行中に何らかのエラーが発生したら、画面にエラーメッセージが表示されます。メッセージを確認して必要な対処を行ってください。



注記: これらのスクリプトが重複して実行されないように、対応するログファイルが既に存在する場合は PWRK\$USER_MIGRATION.COM および PWRK\$GROUP_MIGRATION.COM スクリプトは実行されません。

2.2.2.2 SAM データベースの移行 (PDC の場合)

ここでは、Advanced Server PDC から OpenVMS CIFS PDC へ SAM データベースの情報を移行する手順を説明します。

OpenVMS CIFS PDC へ SAM データベースの情報を移行する手順は以下のとおりです。



注記: 移行作業を進める前に、username.map, passwd.tdb, あるいは secrets.tdb ファイルにエントリがないように初期の設定にすることをお勧めします。また、SYSUAF データベースに cifs\$xxxx タイプのユーザーが存在しないこと、あるいは少なくとも SYSUAF データベースの cifs\$xxxx タイプの既存ユーザーと idmap uid の範囲がかち合わないことを確認してください。また、移行中に処理を中断しないようにしてください。

1. Advanced Server が PDC として動作しているドメインで、OpenVMS CIFS を BDC として構成します。Samba\$root:[LIB]SMB.CONF ファイルを編集して、[global] セクションに次の内容が記述されていることを確認します。

```
workgroup = <AsVdomainname>
domain logons = yes
domain master = no
client schannel = no
username map = /samba$root/lib/username.map
idmap uid = <uid range>
idmap gid = <gid range>
add user to group script = @samba$root:[bin]samba$addusertogroup.com
%g %u
set primary group script = @samba$root:[bin]samba$addusertogroup.com
%g %u
```

2. samba\$root:[lib]lmhosts. ファイルを編集して、次のエントリーを追加します。

```
<ip address of ASV PDC> <asvdomainname>#1b
<ip address of ASV PDC> <asv pdc name>#20
```

3. BDC としてドメインに参加します。

```
$ @Samba$root:[BIN]Samba$DEFINE_COMMANDS.COM
$ NET RPC JOIN "-S" <ASV-NODE-NAME> "-U<adminusername>%password"
```



注記: OpenVMS システムの SCSNODE 名は、しばしば Advanced Server の listenname と異なるものになります。ASV-NODE-NAME は Advanced Server の listenname を意味します。listenname を調べるには次のコマンドを実行します。

```
$ @SYS$STARTUP:PWRK$DEFINE_COMMANDS.COM
$ REGUTL SHOW PARAMETER * LISTENNAME
```

4. OpenVMS CIFS Server を起動します。

```
$ SMBSTART
```

5. Advanced Server PDC から SAM アカウントを複製します。

```
$ NET RPC VAMPIRE "-S" <AS-NODE-NAME> "-U<adminusername>%password"
```



注記: 12文字を超える特別なユーザーが存在する場合、あるいは SYSUAF で扱えないアルファベット以外の文字のユーザーが存在する場合、移行処理を通して、SYSUAF データベースに `cifs$xxxx` タイプのユーザーが自動的に作成されます。さらに、`username.map` ファイルがその特別なユーザー名でアップデートされ、その後、マップされたユーザー名で `passdb.tdb` データベースがアップデートされます。

たとえば、ユーザー Administrator, user 123, および Veryverylonguser が存在した場合、`username.map` ファイルは次のようにアップデートされます。

```
cifs$03E8=ADMINISTRATOR
```

```
cifs$03E9="USER 123"
```

```
cifs$03EA=VERYVERYLONGUSER
```

`passdb.tdb` データベースは次のようにアップデートされます。

```
cifs$03EA:65668074:
```

```
cifs$03E9:65602537:
```

```
cifs$03E8:65537000:
```

6. OpenVMS CIFS BDC に存在するアカウントを確認します。

```
$ PDBEDIT "-L"
```

```
$ NET GROUPMAP LIST
```



注記: 移行処理中に次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

"Unable to modify passwd TDB! Error: Record does not exist occurred while storing the main record (USER_guest) during net rpc vampire."

このエラーメッセージは無視してかまいません。

2.2.2.2.1 パスワードの移行

NET RPC VAMPIRE コマンドはユーザーとマシンのパスワードを適切に移行しません。OpenVMS CIFS 側でパスワードをアップデートするために、次の手順を実行します。

1. Advanced Server でサーバーを停止させます。

```
$ @SYS$STARTUP:PWRK$DEFINE_COMMANDS.COM
```

```
$ PWSTOP
```

2. EXPORTPWD.EXE ユーティリティを実行してパスワードをダンプします。

```
$ RUN EXPORTPWD.EXE
```

パスワードのハッシュ情報が現在のディレクトリの `password_dump.txt` に保管されます。



注記: すべてのパスワードのハッシュがローカルディスクの `password_dump.txt` ファイルにダンプされます。

このユーティリティを実行した際に Advanced Server が実行中の場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
"EXPORTPWD: The Advanced Server or another utility is currently running."
```

EXPORTPWD を実行する前に Advanced Server を停止させます。

3. `password_dump.txt` が生成された後、Advanced Server を起動します。

```
$ @SYS$STARTUP:PWRK$DEFINE_COMMANDS.COM
```

```
$ PWSTART
```

4. password_dump.txt ファイルを OpenVMS CIFS Server のローカルディレクトリにコピーします。
5. 次のように password_dump.txt の場所を指定して IMPORTPWD ユーティリティを実行します。

```
$ IMPORTPWD password_dump.txt
```

password_dump.txt ファイルを読み取る際にパスワードがアップデートされます。システムパスワードもアップデートされます。ユーザーがマップされている場合、マップされたユーザーのパスワードもアップデートされます。設定されているパスワードがない場合は、それを示すメッセージが表示されます。何らかの理由で問題が発生した場合、パスワードのアップデートが失敗したことを示すメッセージを表示し、処理が終わります。

いくつかの例を以下に示します。

```
Update of user "test1" successfull
Update of user "test2" successfull
Update of user "wrkstn1$" successfull
Update of user "wrkstn2$" successfull
Update of user "macnm$" successfull
No Lanman password for user: user with space
No NT password for user: user with space
Update of user "user with space" successfull
No Lanman password for user: veryverylonguser
No NT password for user: veryverylonguser
Update of user "veryverylonguser" successfull
No Lanman password for user: usr 123
No NT password for user: usr 123
Update of user "usr 123" successfull
Update of user "my usr" successfull
Update of user "Administrator" successfull
Username not found : Guest
Update of user "ASUTEAM" successfull
Update of user "ASVTEAM" successfull
```

2.2.2.2.2 移行後に OpenVMS CIFS を PDC として構成する

OpenVMS CIFS を PDC として構成するには、以下の手順に従ってください。

1. Advanced Server をシャットダウンします。

```
$ @SYS$STARTUP:PWRK$SHUTDOWN.COM
```
2. OpenVMS CIFS Server を PDC として構成します。SAMBA\$ROOT:[LIB]SMB.CONF ファイルを編集して、[global] セクションで次のように設定します。

```
domain master = yes
```
3. SAMBA\$ROOT:[LIB]LMHOSTS. ファイルから次の 2 つのエントリーを削除します。

```
<ip address of ASV PDC> <asvdomainname>#1b
<ip address of ASV PDC> <asv pdc name>#20
```
4. OpenVMS CIFS Server を起動します。

```
$ SMBSTART
```

2.2.3 ファイルの移行

ここでは、共有ディレクトリツリーのファイルおよびディレクトリを Advanced Server から OpenVMS CIFS Server ノードへ転送する方法について説明します。Advanced Server から

OpenVMS CIFS Server ノードへのファイルおよびディレクトリの転送は、システム管理者が行います。ノード間あるいは異なるディスク間でファイルをコピーする場合、ディレクトリ構造は Advanced Server のものと同じになるようにしてください。デバイス名および論理名が OpenVMS CIFS Server とは異なる共有パスを指す場合、共有レポートおよびファイルセキュリティ・レポートのデバイス名および論理名は適当なものにアップデートしてください。デバイス間あるいはノード間でファイルをコピーするには、ファイルのバックアップやリストアのための BACKUP ユーティリティなど、適切な方法を使用してください。同じノードでの移行の場合、あるいは新しい OpenVMS CIFS Server が Advanced Server と全く同じ方法でデータにアクセスできる場合は、この作業は必要ありません。

2.2.4 ファイル共有の移行

ここでは、Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へのファイル共有の移行方法について説明します。ファイル共有関連の情報を移行する前に、2.2.2 項「SAM データベースの移行」、2.2.1 項「ホストマッピングの移行」、および 2.2.3 項「ファイルの移行」で説明した作業が完了していることを確認してください。OpenVMS CIFS Server を実行しているノード上でファイル共有関連の情報を移行するには、以下の手順に従ってください。

1. ファイル共有に関するレポートを作成すると、次のファイルが生成されます。

```
ASV_SHARE_INFO.COM
```

このコマンドプロシージャには、ファイル共有を移行するためのコマンドが含まれています。生成される各ファイル共有に対して、このコマンドには次のエントリーが含まれます。

```
$ <image-name>
```

```
"<share-name>|<Description>|<share-path>|<connections-info>|<RMSTypes>"
```

<image-name> は add_prnshare あるいは add_dskshare のどちらかになります。

<share-name> は共有の名前です。

<share-path> は、その共有がホストする VMS フォーマットのパス名です。

<RMS Types> は、UDF(none)、Sequential Fixed、Stream あるいは StreamLF のいずれかです。

たとえば、NETLOGON 共有に対して以下のエントリーが生成されます。

```
$ ADD_DSKSHARE "NETLOGON|LOGON SCRIPTS Directory|PWRK$LMROOT:[LANMAN.REPL.IMPORT.SCRIPTS]|0|2"
```

このコマンドプロシージャを編集して適切に変更する必要があります。移行したくない特定のファイル共有がある場合は、次の例のように感嘆符 (!) でそのエントリーをコメントアウトします。

```
$! ADD_DSKSHARE "NETLOGON|LOGON SCRIPTS Directory|PWRK$LMROOT:[LANMAN.REPL.IMPORT.SCRIPTS]|0|2"
```

2. 同じノード内でデータを移行する場合は、Advanced Server をシャットダウンします。
3. ファイル共有の移行を実行します。このコマンドプロシージャは OpenVMS CIFS Server の IP アドレスと管理アカウントのユーザー名およびパスワードを必要とします。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]CIFS$SHARE_MIGRATION.COM
```

OpenVMS CIFS Server がメンバーサーバーとして構成されている場合は、CIFSADMIN アカウントを使用してください。

2.2.5 ファイルセキュリティの移行

ここでは、Advanced Server から OpenVMS CIFS Server へファイルセキュリティを移行する方法について説明します。

ファイルセキュリティのレポートを作成すると、次のようなファイル名で一連のコマンドプロシージャが生成されます。

```
PWRK$FILEEACLMIG_<share-name>_<xxxx>.COM
```

<share-name> は、このプロシージャーによるファイルおよびディレクトリセキュリティの移行対象となる共有の名前です。

xxxx は、各共有ごとに 00000 から始まり 50,000 ACL エントリーごとに増加するシーケンシャルな番号です。

各共有ごとに、あるいは 50,000 ACL エントリーを処理するごとに、新しいプロシージャーが作成されます。

たとえば、下記の表に示すような共有と ACL エントリー数がある場合、この表に示すようなコマンドプロシージャーが作成されます。

共有名	共有内のファイルの ACL エントリー数	生成されるファイル
Share1	5000	PWRK\$FILEACLMIG_SHARE1_0000.COM
Share2	65000	PWRK\$FILEACLMIG_SHARE2_0000.COM PWRK\$FILEACLMIG_SHARE2_0001.COM
Share3	125000	PWRK\$FILEACLMIG_SHARE3_0000.COM PWRK\$FILEACLMIG_SHARE3_0001.COM PWRK\$FILEACLMIG_SHARE3_0002.COM

移行したくない特定の共有がある場合は、生成されたファイルのうちそれに対応するものは無視してください。

上記の例で share2 のセキュリティを移行したくない場合は、下記のコマンドプロシージャーは実行しないでください。

```
PWRK$FILEACLMIG_SHARE2_0000.COM
```

```
PWRK$FILEACLMIG_SHARE2_0001.COM
```

ファイルセキュリティの移行のためのコマンドプロシージャーには、ACL や OWNER フィールドなど、ディレクトリ、サブディレクトリ、あるいはファイルのセキュリティを設定するためのコマンドが含まれています。

各ディレクトリ、サブディレクトリ、およびファイルごとに OWNER フィールドを設定します。OWNER フィールドを設定する前に、wbinfo の --domainname-to-hostname スイッチを使用して OpenVMS CIFS Server で対応するユーザーを取得します。このスイッチは、すでに存在する場合は適切なホストユーザーを返します。存在しない場合、そのユーザーに関するマッピングがあるかどうか確認します。どちらにも該当しない場合、VMS ホストユーザーを作成し、そのユーザー名を返します。OWNER フィールドは、次のコマンドを使用して設定されます。

```
$ SET SECURITY/OWNER
```

OWNER フィールドを設定する際、コマンドプロシージャーは、その所有者が SYSTEM かどうかを確認します。所有者が SYSTEM の場合、OWNER に SYSTEM [1,4] を設定します。

たとえば、USER1:[CIFSHR1] ディレクトリの FILE1.TXT に SYSTEM を設定するエントリーがある場合、OWNER フィールドは次のコマンドを使用して設定されます。

```
$ SET SECURITY/OWNER=[1,4] USER1:[CIFSHR1]FILE1.TXT
```

各 ACL エントリーを設定するために、wbinfo の "--domainname-to-hostname" スイッチを使用して、OpenVMS CIFS Server で対応するユーザーおよびグループの情報を取得します。wbinfo のこのスイッチは、既に存在する場合、適切なホストユーザーおよびグループを返します。存在しない場合は、そのユーザーに関するマッピングが存在するかどうかを確認します。どちらにも該当しない場合、VMS ホストユーザーあるいはグループが作成され、それらが返されます。対応するホストユーザーが正しく取得できたら、NT ACL が VMS ACL にマップされます。ディレクトリエントリーの場合は、このディレクトリの下に作成される ACL が継承されるように "options=default" ACL が取得および設定されます。

メンバーサーバーの場合、wbinfo ユーティリティとコマンドプロシージャは、ドメインユーザー、ドメイングループ、ローカルユーザー、およびローカルグループを処理します。ローカルユーザーの場合、パーミッションあるいは OWNER フィールドはマップされるユーザーをもとに設定されます。PDC の場合、wbinfo ユーティリティはドメインユーザーとグループを処理します。

"Power Users", "SYSTEM", あるいは "CREATOR OWNER" のエントリーがある場合、これらのエントリーは無視されます。"Power Users" グループは下位互換性のために存在します。SYSTEM ACL エントリーは Windows NT の内部システムアカウントで、OpenVMS CIFS Server には同等のアカウントがありません。"CREATOR OWNER" グループに相当するセキュリティエントリーも存在しません。

ACL エントリーを設定する際、コマンドプロシージャはグループ名が "Everyone" に設定されているかどうか確認します。このグループにはホスト名を関連付けられないので、このグループエントリーは対応する RMS ワールドカテゴリーにマップされます。

たとえば、エントリー "Everyone = Read" が USER1:[CIFSHR1] ディレクトリの FILE1.TXT に設定されている場合、次のコマンドでプロテクションを設定します。

```
$ SET SECURITY/PROTECTION=(W:R) USER1:[CIFSHR1]FILE1.TXT
```

共有が ODS-5 ディスクでサービスされている場合、DCL コマンドを実行する際に特殊記号を処理できるように、処理解析スタイルは extend に設定されます。この設定は再度 "traditional" にリセットされます。

wbinfo からホスト名を入手するのは時間がかかるため、スクリプトはこの移行処理のために特別に作成されたネームテーブルの論理名を使用して wbinfo から入手したエントリーをキャッシュします。対応するホストユーザーをキャッシュから取得できない場合は、wbinfo を使用して取得します。

このコマンドプロシージャは、実行されるスクリプトごとに、ログファイル PWRK\$FILEACLMIG_share-name>_<xxxx>.LOG を生成します。何らかの理由でプロシージャが ACL を設定できない場合、詳細を記述したログエントリーが作成されます。ACL の設定で何らかのエラーが発生した場合は、適切な対処を行う必要があります。

前提条件

ファイルセキュリティの移行に関しては、PWRK\$FILEACLMIG_<share-name>_<xxxx>.COM コマンドプロシージャを実行する時点で次の前提条件を満たしている必要があります。

- OpenVMS CIFS Server を実行しているノードに Advanced Server のすべてのユーザーおよびグループを移行した。
- OpenVMS CIFS Server を実行しているノードに Advanced Server のすべてのファイル共有を移行した。
- OpenVMS CIFS Server を実行しているノードに Advanced Server のすべてのファイルを移行した。

OpenVMS CIFS Server を実行しているノードでファイル ACL 情報を追加するには、以下の手順を実行します。

1. 同一ノードでデータを移行している場合、Advanced Server をシャットダウンしてください。
2. ファイルセキュリティを移行するために、次のコマンドを実行します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]PWRK$FILEACLMIG_<share-name>_<xxxx>.COM
```

以下に例を示します。

```
$ @SAMBA$ROOT:[BIN]PWRK$FILEACLMIG_SHARE1_0006.COM
```




注記: SAMBA\$ROOT:[BIN]PWRK\$FILEACLMIG_<share-name>_<xxxx>.COM は、VMS のネイティブフォーマットで ACL を設定するためのコマンドが含まれているコマンドプロシージャです。このスクリプトは、対話形式でもバッチ形式でも実行できます。ACL エントリーには相互依存関係はないので、これらのスクリプトは個々に、また同時に実行できます。



重要: 特定のディレクトリあるいはファイルを移行する場合は、このコマンドプロシージャを手動で編集して、適切に変更する必要があります。

特定の共有に対してセキュリティを設定したくない場合は、2.2.5 項「ファイルセキュリティの移行」で説明する手順に従ってください。

移行先のノードでそのパスが有効なことも確認する必要があります。パスは Advanced Server の共有パスをもとに設定され、移行先のノードでそのまま使うのは適当でない場合は手作業で変更が必要になります。

あるストレージデバイスから別のストレージデバイスへ共有を移行する場合、PWRK\$FILEACLMIG_<SHARENAME>_NNNN.COM コマンドプロシージャを編集してすべてのデバイス参照を変更する必要があります。一時的に、PWRK\$FILEACLMIG_<SHARENAME>_NNNN.LOG ファイルでの名前と一致する論理デバイス名を定義し、共有が実際に置かれるデバイス名と関連付けることもできます。

たとえば、Advanced Server のデバイス DISK\$KITS2 にある共有 PW32 を Integrity サーバの DISK\$SAMBA に移して同じディレクトリ構造を維持する場合、PWRK\$FILEACLMIG_PW32_0000.COM コマンドプロシージャを実行する前に、このコマンドプロシージャを編集してすべての DISK\$KITS2 参照を DISK\$SAMBA に変更するか、次の論理名を定義します。

```
$ DEFINE DISK$KITS2 DISK$SAMBA:
```

編集すべき PWRK\$FILEACLMIG_<SHARENAME>_NNNN.COM コマンドプロシージャが複数ある場合は、上記の例で示すように論理名を定義して実行してください。

すべての PWRK\$FILEACLMIG_PW32_NNNN.COM コマンドプロシージャを実行した後、論理名の定義を解除することができます。

論理名はプロセス単位に定義されています。このため、

PWRK\$FILEACLMIG_<SHARENAME>_NNNN.COM コマンドプロシージャをバッチで実行したい場合は、システムワイドで論理名を定義する必要があります。

3. ファイルセキュリティの移行が完了したら、CIF\$MIGRATION_CLEANUP.COM コマンドプロシージャを実行して不用ファイルを削除する必要があります。

2.3 制限事項

ここでは、移行の制限事項について説明します。

- PDC を移行する際、ローカルグループメンバーは移行されません。
- personal 共有および hidden 共有の移行はサポートされません。Advanced Server の personal 共有と同等の機能は、OpenVMS CIFS Server の [HOMES] 共有により提供されます。
- PWRK\$CIFS_MIGRATION.COM によって作成されるホストマッピング・レポートには、もはや有効でないエントリーあるいは SID が解決できないエントリー (すなわち、すでに存在しない古い信頼関係あるいは古いユーザーアカウント) を含む可能性があります。このため、作成されたホストマッピング・レポート AS_HOSTMAP_INFO.OUT は、内容をチェックし、必要に応じて変更する必要があります。
- Windows では ACE の NONE アクセスは ACL の ACE より優先されますが、OpenVMS ではそうではありません。Windows では、NONE を示すものを除き、すべてのパーミッションが累積します。たとえば、あるユーザーが複数回リストされる場合、それらのパー

ミッションの上位集合が適用されますが、OpenVMS の場合、そのユーザーに対する最初の ACE が適用された時点で処理がストップし、そのアクセスが適用されます。

- OpenVMS CIFS Server は、共有セキュリティの移行をサポートしません。この機能は OpenVMS CIFS Server の将来のリリースでサポートされます。
- OpenVMS CIFS Server は、プリントキュー、プリントフォーム、プリントドライバー、キュー論理名の移行はサポートしません。この機能は OpenVMS CIFS Server の将来のリリースでサポートされます。
- メンバーサーバーの移行処理の際、グループを移行する時に、対応するリソース識別子が権限 ID データベースに追加されます。VMS には識別子名の生成に関して制約があるため、グループ名を VMS により認識可能なリソース識別子に変換するというアルゴリズムが使用されます。複数の名前が同じ名前に変換された場合、VMS はリソース識別子を作成できずエラーが表示されます。この状況は、最初の 26 文字までは同じ (すなわち 26 文字を超える) 長いグループ名が複数ある場合などに発生します。
- マシン名が 12 文字を超える場合、あるいは名前に特殊な文字が含まれる場合、SYSUAF でそれらを扱えないという問題が発生します。
- VTF モジュールを使用する場合は、ASCII 文字以外をフォルダ名に使用することはできません。
- OpenVMS CIFS では日本語の共有名、ユーザー名、グループ名をサポートしないため、これらの名前に日本語を使用している場合は、CIFS に移行する前に英数字に変更する必要があります。

索引

S

SAM データベースの移行

ユーザーおよびグループアカウントの移行, 16

い

移行手順

Advanced server, 11

不用ファイルの削除, 15

レポートの生成, 11

レポートの転送, 15

OpenVMS CIFS Server, 16

SAM データベースの移行, 16

ファイル共有の移行, 22

ファイルセキュリティの移行, 22

ファイルの移行, 21

ホストマッピングの移行, 16

ふ

ファイル共有の移行, 22

ファイルセキュリティの移行, 22

ファイルの移行, 21

ほ

ホストマッピングの移行, 16